

子ども会 (学習会) だより

MY SKY No. 33

マイ・フレンド

1998年2月17日火曜日発行(毎週火曜日子まぐれ発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責: 吉成正士

多くの3年生にとって、決断^{けつだん}を迎える時がいよいよやってきました。徳島県公立高校の^{しゅつがんにび}出願日です。もうすでに進路決定している人もいるでしょうし、今回の出願には関係のない人もいるでしょう。でも、それぞれの人生をそれぞれが決める瞬間であってほしいものです。

かつて私も、高校進学という瞬間がありました。そのとき、周囲に説得^{せつとく}され、押し切れ、自分の考えてた進路を貫^{つらぬ}き通せなかった後悔^{こうかい}が今でも残っています。情けない限りです。その教訓^{きょうくん}を生かして、

「これからは自分の進む道は自分で決め、自分で切り開いていく！」

という考えが強く根づいてきました。

1・2年生も、遠い先のお話ではなく、すぐにやってくる試練^{しれん}の別れ道です。そのときになって焦^{あせ}って考えるのではなく、今から真剣に考えておきましょう！なぜなら、自分の進路だから！自分の人生は自分の手で切り開いていくものだから！周囲の人の意見を参考にすることはあってもいいと思いますが、あくまでも決定するのは自分ですから！そのことはしっかり持ってくださいね！決して後悔することのないように！

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

☆ 3年生を送る会「マイ・フレンド フォーエバー」

今週の木曜日、生徒会と1・2年生が中心となって、文化の館さくらホールで「3年生を送る会」が行われます。午後からホールの方へ移動^{いどう}して、卒業を控^{ひか}えての激励^{げきれい}のプレゼント贈呈^{そうてい}などが行われるのですが、そのときに、全校生徒で映画鑑賞^{かんしょう}をする計画があるようです。もうみなさんご存じだと思いますが、それが「マイ・フレンド フォーエバー」です。HIVウイルス^{かんせん}に感染した少年と、その友達が繰り広げる冒険物語^{ぼうけん}です。せっかくの機会^{きかい}なので、その簡単なあらすじを掲載しておきます。どうぞ読んでみてください。

人生のもっとも多感^{たかん}なときに、エイズととも^{エイズ}に生きる少年デクスター(ブラッド・レンフロ)と出逢^{であ}ったエリック(ジョゼフ・マゼロ)。いじめっ子^{から}に絡まれたとき、エリックは勇気^{ゆうき}を奮^{ふる}ってデクスターを守る。エリックはデクスターの母に可愛^{かわい}がられ、初めて家

庭の暖かさを知る。そして、二人は冒険の旅に出る。小さなイカダに乗って、特効薬が発見されたと伝えられるニューオリンズを目指して……所持品は薬と地図と寝袋。ポケットには僅か200ドル(約24000円)。

木漏れ日、水面をわたる風、川下りは希望に満ちていた。しかしある夜「宇宙に行くと、戻れない気がする」と、死の恐怖を語るデクスター。そんな彼に、エリックは自分のスニーカーを抱かせた。「こんな汚れたスニーカーを抱いてるんだ、宇宙にいるはずがない。僕が君のそばにいるのが判るだろう。」

旅を急ぐ二人は金を払って大きな船に乗り代えた。しかし、道草をくってばかりの船長に嫌気がさし、支払ったなけなしの金を取り戻し船から逃げる二人。船長に追い詰められたとき、デクスターは自らの手をナイフで切りつけて言った。「僕の血は毒だ。一滴でお前を殺せるんだぞ」一難去ったものの、その場に沈み込んでしまったデクスター。もう旅は続けられなかった。病魔が彼の体を蝕んでいたのだ。永遠に続くかに思われた夏が、今、終わろうとしている……。

私の担当教科は数学なのですが、その昔、採点したテストを生徒のみなさんに返すとき、100点や90点台の子には「よろしい」とか「よくできました」なんて声をかけていたことがありました。それ以外の子にはどうだったかというと、たまに「惜しかったな」とか言うくらいで、ほとんどの子には無言でした。

ある時、ふとそんな自分を思い返してみました。

「本当に、100点とか点数のいい子だけがいいんだろうか……勉強がわかりたくつてもなかなかわからず、低い点数しかとれない子はどんな気持ちでテストを返してもらっているんだろうか……自分が生徒の時はどうだったんだろうか……」

こう思ったとき、それまでの自分の行動がすごく恥ずかしく思われ、ショックでした。自分のこの何気ない、思いやりのない言動で、多くの子どもたちを傷つけてきたとしたら、私は子どもたちに詫言しなければなりません。当たり前のことなんですよ。

「結果がすべてじゃなく、それまでに積み重ねた努力が大切なんだ」

なんてことは……。でも私は勝手なもので、その当たり前のことを知っていながら、いつの間にかそのことから遠く離れて、偉そうな教師になっていたんだと思います。恥ずかしい限りです。

ここ数年、授業でよく言うことです。

「その点数が、自分の努力に対して納得のいくものであれば、何点であってもいいんです。その点数がたとえ高得点であっても、努力に対して納得のいくものでなければ、やはり反

省すべきなんです。点数にごまかされ、人の批評^{ひひよう}に惑^{まど}わされてはいけません」

ある時、成績結果について家族で話し合った文章が届けられました。

私は特別頭がいいとかじゃないし、ごくふつうに勉強して頑張りました。父母にももっと上ということが顔に出ていたような気がします。なんだかいやな気分です。そして番数下がったら部活もやめさせるみたいなことも言われるし、私はそんな勉強ばかりやっていくはありません。だから、もっと自分のあり方を見つけ、常に頑張ってやっていきたいです。そして何番であっても自分はこれだけ頑張ったんだと言えるようにしていきたいです。

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ☆☆☆ ★☆☆ ☆☆☆

とにかくやっぱり、人間は見かけだけ、目に見えることだけで判断^{かんぱん}すると思った。陰で頑張っていたことを、誰もほめてなんかくれなかった。少しさぼっていたときもあったけど、自分なりに一生懸命やったと思う。どうせ目に見えるところだけで決めつけるから、今度はきちんとしないといけないと思った。やっぱり順番^{しゅんぱん}とかで見る。私の家族は……。

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ☆☆☆ ★☆☆ ☆☆☆

私は父だけに報告^{ほうこく}した。父さんは「まあ総合の期末テストをがんばれ。それにしても数学が……。また休みの日に理解しような」と言ってくれて、私はとてもうれしく、頑張るぞという気持ちになった。このごろ部活帰りで遅く、勉強する時間がない。風呂^{ふろ}沸かし、洗濯^{せんたく}、洗い物、ご飯炊きに電話もかかってくる。私もうやとは言えずにやっているし、母さんも仕事が忙しいから仕方がない。家事と勉強^{りょうりつ}を両立^{かじ}するのも一部の勉強だと思っている。だから母さんがテストの結果を「頑張ったな」と言ってくれたのがうれしかった。妹には勘^{かん}の良さがあるのか、テストはいつもいい点ばかりだ。だから私の悪い点を聞くと、誰かに言おうとする。「言われたくなければ金を出し」と言われたこともあるが、そんなこと言うなと殴^{なぐ}って叩^{たた}いたこともある。婆^{ばあ}ちゃんは喜んで「よかったね」と言ってくれたのがうれしかった。

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ☆☆☆ ★☆☆ ☆☆☆

僕はテストの結果を見せて親の顔色が変わって怒られました。「こんな結果だったら高校や行けんでよ」と言われました。30分ぐらい怒られて、最後の言葉で傷つけました。「こんな子もって恥ずかしいわ」そして勉強部屋^{めずら}に行って勉強していたら、「珍しい」と言われました。「どこが珍しいんな、夜になったらこのくらいしよるわ」と思いました。後で思ってみると、あのときの親の顔は鬼そのものだったと思う。

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ☆☆☆ ★☆☆ ☆☆☆

私はテストの結果がビリでなかったので、うれしかったです。ニコニコしながらお母さんに見せると、「こんな番数にとって！これからちゃんと勉強しなさい！こんな番数にとってよくニコニコ笑えるな！」と怒られたんです。お父さんはあまり怒らなかったで、ホッとしました。二度とこんなことがないようにしていきたいです。そしてこれからはまじめに勉強して、いい点にとって、お父さんやお母さんを喜ばせてあげたいです。

まさに地獄です。一回のテストで、これだけ家庭にひずみが生まれるのかと思うと、本当にゾッとしてしまいます。そりゃあ、冷めた人間、卑屈な人間にもなりますよ。これでは「素直に伸びなさい」と言う方が無茶ですよ。これではまるで、毎回毎回差別意識を刷り込んでいるようなものです。まさに、「空気を吸うがごとく差別意識を吸い込んでい

る」というやつです。

それでも子どもたちは、お父さん、お母さんに喜んでほしくて、その笑顔が見たくて、一言でもほめてほしくて頑張ろうとします。健気じゃないですか。その素直さを、私たち大人はもっと大切に、一人ひとりのいろんな面をきちんと見つめ、その評価を漏らさずしていかなければなりませんよね。

でも、もしこんなしんどい思いから解放されれば、言われる子どもも、言う大人も、どんなに楽でしょう。こんなしがらみから解放放たれるためにも、また他のいろんなしがらみから解放されるためにも、もっともこのおかしい世の中を変えていきませんか？その一人となってみませんか？今のこの世の中にある点数至上主義に流されるのではなく、いろんな価値観を堂々と、真顔で、そして大声で主張し、大手を振って歩く人となってみませんか(かといって、何でもかんでも認められるというわけではありませんよ)。

ところで、話の元は映画でした。実はこの土曜日に、岡山県へ勉強しに行ってきます。みなさんご存じの「^{しおぞめいつき}洪染一揆」について「^{しおぞめいつき}洪染一揆資料館」へ。それと「ハンセン病」について「^{ながしまあいせいえん}長島愛生園」という所へです。ハンセン病とは、らい病とも言われ、長い間ずっと差別の対象となってきました。映画のように、現代のAIDSもまた、差別の対象となっています。このように、いろんな疾病に対する偏見や差別も残っています。

卒業生のみなさん、また1・2年生のみなさん、この映画と、今おかれている^{じゅけんせんそう}受験戦争まっただ中の自分を重ねて、今一度、考えてみてください。本当に大切なものって一体何なんでしょう？

最後に、もう4年も前になりますが、みなさんの先輩が徳島新聞に投稿し掲載された文章を載せておきます。読んでみてください。

私は無事志望校に合格しました。合格するまでの道のりは厳しく、とても苦しかったです。それは高校入試を簡単に考えていたからでした。今の成績では志望校は難しいとわかり、必死で勉強したけど成績は思うように上らず、途中で志望校をあきらめてほかの高校に変更しました。

入学願書提出一週間前に担任の先生から「前の志望校を受験してみても」と言われ、二日間悩み続けました。やはり当初の志望校に行きたいという気持ちが90%あり、石にかじりついても絶対合格をと思い、今まで以上に勉強し毎日が本当に苦しいものでした。

その苦しみを乗り越えて頑張ることができたのは、高校に合格して同和教育をやったからです。担任の先生もそのことを知っていたので^{すす}勧めてくれたのだと思います。合格した今、先生の期待に応えられるように先輩、友達と一緒に、苦しいことやつらいことも中学時代にみんなで取り組んだ授業を思い出し、高校でも自分の思いを語って、部落問題の解決に向かって頑張ります、私の闘いがこれからスタートします。^{あともし}後戻りすることなく少しでも前進することを望んで、4月から待望の高校で一步步達成していきたい。そして「昨日の自分より今日の自分が好き」になれるように頑張っていこうと思います。

1994年3月31日徳島新聞「読者の手紙」掲載



来週23日には、その週の全体学習に向けて学習会1

年生の合同地域学習があります。すべての会場の学習会生徒が^{つど}集い、全体学習に向けてその^{きずな}絆を確認し合う時間です。いろんな都合があると思いますが、やりくりして参加できるようにしてくださいね！またそれまでに、資料についての自分の思いや考えを^ほ掘り^お起こしておいてください。教科学習と同様に(いそれ以上も……)大切な学習ですから、日頃考えていることを、この機会に深めてみましょう！

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★★★ ☆☆☆

2月18日(水) 3年代休(徳島県公立高校出願締切日)、1・2年テスト

19日(木) 3年生を送る会(13:00～；文化の館さくらホール「マイフレンド フォーエバー」)

20日(金) 「同和教育・部落問題」勉強会(19:30～；郡頭教育集会所「^{水平}植^植について」)

23日(月) 1年生合同地域学習(17:30～19:30；総合センター)

26日(木) 第1学年第5回全体学習

27日(金) 第2学年第3回全体学習



本号掲載予定していた「子どもへ贈る私の手紙」は次号掲載いたします。